



# バリアフリー推進レポート



## 第8回岡山県バリアフリー等地域連絡会議を開催しました！

バリアフリー等地域連絡会議は、平成22年度から中国地方各地でのバリアフリー化を推進する目的で各県において隔年で開催しています。

このたび、第8回岡山県バリアフリー等地域連絡会議を下記のとおり開催しました。

### 【会議概要】

日時：令和6年1月25日（木）14:00～16:00

場所：対面・WEB 併用で実施

- 議事：（1）開会挨拶  
 （2）座長挨拶  
 （3）運営要綱の一部改正について  
 （4）第5回移動等円滑化評価会議中国分科会の報告について  
 （5）構成員のバリアフリーに関する取組状況について  
 （6）意見交換  
 （7）閉会挨拶

### 【構成員】

- 学識経験者  
 川崎医療福祉大学  
 医療福祉マネジメント学部  
 医療福祉デザイン学科 講師 岩藤 百香
- 高齢者・障害者団体
  - ・（公財）岡山県身体障害者福祉連合会
  - ・（社福）岡山県視覚障害者協会
  - ・（公社）岡山県聴覚障害者福祉協会
  - ・（特非）岡山県精神障害者家族会連合会
  - ・（一社）岡山県手をつなぐ育成会
  - ・（特非）岡山県自閉症協会
  - ・（財）岡山県老人クラブ連合会【欠席】
- 施設設置管理者
  - ・西日本旅客鉄道株式会社 中国統括本部
  - ・井原鉄道株式会社
  - ・水島臨海鉄道株式会社【欠席】
  - ・岡山電気軌道株式会社 電車営業部
  - ・（公社）岡山県バス協会
  - ・（一社）岡山県タクシー協会
  - ・（一社）岡山県旅客船協会
  - ・岡山県旅館ホテル生活衛生同業組合【欠席】
  - ・岡山空港ターミナル株式会社 施設課
- 行政機関
  - ・中国地方整備局、中国運輸局
  - ・岡山国道事務所、岡山運輸支局
  - ・岡山県
  - ・岡山市
  - ・倉敷市

### 【会議の様子】



岡山運輸支局長  
開会挨拶



座長 川崎医療福祉大学  
岩藤 百香 講師



対面会場  
(岡山国道事務所)



意見交換



岡山県土木部監理課長  
閉会挨拶

## 【構成員のバリアフリーの取組状況（概要）】

- 駅のバリアフリー整備（エレベーター、内方線付点字ブロック、デジタルサイネージの設置等）の推進。
- バスの乗り方教室・意見交換会の実施、バスステーションに自動行先案内放送を設置。
- タクシーのユニバーサルドライバー研修・運転者講習を月2回ずつ実施。
- バリアフリー対応船の建造、待合所へスロープ・バリアフリートイレ・券売機の設置。
- 空港ユニバーサルデザイン診断(現地調査)を実施。
- 道の駅3駅の障害者用駐車場・通路に上屋（屋根）を設置。
- 大手コンビニエンスストア5社に対し、福祉のまちづくり条例の適合を依頼。
- 「あいサポート運動」推進、「ホットパーキングおかやま」駐車場利用制度の普及、ヘルプマークの周知・配布。
- 「岡山市バリアフリー基本計画」に基づく駅前広場等の整備、民間建築物改修の補助制度を創設(R5.4～)。
- 「おもてなしマスター制度」講習会、倉敷市バリアフリー市民会議の開催。
- みどりの窓口プラスの操作講習会を難聴者協会と開催。
- 視覚障害者に歩行位置を知らせる磁気装置実証実験に参加。
- 世界自閉症啓発デーや発達障害啓発週間に街頭啓発活動を実施。

## 【意見交換（概要）】

- 精神障害を持たれている方は不安感が強く何かあった時にパニックになりやすい。ヘルプマークの周知をお願いしたい。  
[回答]：ヘルプマークの周知を進めて行くとともに方法も色々と検討して行きたい。
- 海上運送法等の一部を改正する法律について
  - ①小型旅客船の乗組員に実施する「乗下船の接遇」と「緊急時避難」について、障害者への対応はどうなっているのか。  
[回答]：知床観光船事故をふまえ船長等に対する教育訓練が義務付けられるとともに、船員以外のサービス要員やガイドも対象になった。詳細は来月に国土交通省本省から示されるガイドラインに記載予定。
  - ②旅客の避難について定期的に実施する教育訓練について、障害者への対応はどうなっているのか。  
[回答]：旅客船協会の会員各社で個別に訓練を行う他、年1回協会合同で乗組員研修会を実施。訓練内容は避難誘導、救命設備の取扱、群集心理の理解など。非常時の対応としては障害をお持ちの方を最優先に、お年寄りや子供、婦人を優先して避難させるのが原則である。会員各社、安全運航に努めており安心して御乗船いただきたい。
- 改正旅館業法と障害者差別解消法の合理的配慮について  
事業者は従業員の定期的な研修をどのように実施しているのか。  
[回答]：会員各社に対して、組合で障害者差別解消法についてのセミナーや説明会を実施し、内閣府のリーフレットやポスターの配布、内閣府のポータルサイトの配信などを行っている。
- 駅と商業施設が一体化している場合、JRの駅は点字ブロックがしっかり敷設してあるが、どこからが商業施設かわかりにくい。商業施設の方にも参加していただき、歩行訓練を行う等、一体化したバリアフリーをお願いしたい。  
また、視覚障害者はセルフレジの導入により買い物困難者となっているので、ソフト面でのサポートをお願いしたい。  
[回答]：本日いただいたご意見は一度こちらでお預かりさせていただき、機会があれば取り上げさせていただきたい。

## 【意見交換（概要）】（続き）

- JR 津山駅のエレベーターについて、障害者や高齢者、観光客から助かっているという声が多くあるが、音声案内について、「こちらのドアが開きます」では視覚障害者の人に分からないので、「反対側のドアが開きます」としてほしい。

**回答**：会社の設計施工標準で「開閉する側の戸を音声アナウンスで知らせる」と定めてあり、開閉するドア側のスピーカーからアナウンスが流れる。アナウンス内容は定めがない。わかりにくいというご指摘を踏まえ、今後検討していきたい。

- 岡山駅の東口に路面電車が乗り入れるが、車椅子利用者から「バリアフリーになるのか」といった懸念の声がある。

**回答**：乗り入れは駅前広場を検討中。車いすの乗り入れには電車自体のバリアフリー化も必要なため、低床車両の導入については事業者が市が支援を行い、今後も一体的に取り組んで行く。

- MaaS（マース：Mobility as a Service の略）の前提となる既存の公共交通が地方で衰退している。中国運輸局では MaaS の普及に関してどのような施策をしているのか。

**回答**：バス、電車や船といった各モードごとに予約や支払をしている状況を一つのプラットフォームにまとめ、出発地から目的地まで全ての交通を一本化し予約・利用できるものが MaaS である。利用者にとっては利便性が上がり、事業者もシステムに入ることによって利用が進み、両者にメリットがある。継続して利用されれば公共交通の維持にも繋がる。

MaaS の実証実験として広島県では末端のグリーンズローモビリティを含めた運行等も行った。各市町村では「公共交通会議」を設置し、移動円滑化や利用促進を協議している。希望があれば実証運行の支援メニューを活用いただきたい。

**回答**：交通ネットワーク自体が維持できないのは県としても危機的状況と思う。自家用車を使った助け合い交通の制度拡充の話も聞いており、新しい仕組みを取り入れ、国や市町村と連携しながら良い方向に持って行きたい。

- 最近、有人窓口が廃止され、「みどりの券売機プラス」への置き換えが進んでいる。遅い時間まで対応していただけるメリットはあるが、操作が難しい、オペレーターに繋がらない等の理由から有人窓口に戻してほしい要望もある。

お客様の不安を払拭するために JR でどのような取組を進めているのか。

**回答**：券売機設置は人手不足や会社維持の観点で致し方ない点があることをご理解いただきたい。

「みどりの券売機プラス」の使い方講習を実施し、いただいたご意見を元に使い易いものにしていく取組を行っている。

待ち時間はオペレーターの増員や処理スピードを上げる対策をとっている。JR 西日本のホームページや「WESTER」アプリで待機人数の情報も提供しているので活用いただきたい。

- 聴覚障害者は手話や筆談でないやり取りができないが、「みどりの券売機プラス」ではどのような対応をしているのか。

**回答**：「みどりの券売機プラス」にはカメラが付いており、WEB 上で対面と同じように筆談や手話が可能である。リレーサービスの要望もいただいているが、実現はしていない。

## 【座長まとめ（概要）】

- スロープが付く等のハード面、ドライバーへのおもてなし講習等のソフト面実践にかかる報告が多数あり大変すばらしく思う。
- 一方で、隅々まで届くサービスを維持することの難しさが生じているというご意見もあった。
- 全ての課題を一気に解決することは難しいが、本会議のような機会を設け、粘り強く対話をしていくことが大切ではないか。
- 知床遊覧船事故や能登半島地震で不安に思われた方も多し。非常時の防災バリアフリーについても確認いただきたい。
- こういった取組や情報が、当事者やサポートする者だけでなく、より多くの人々に知られて行くことが大切。私達自身も伝えて行く努力をする必要がある。